

# ネイチャーポジティブ実現に向けて ～清水建設のTNFD開示～



©2025 Shimizu Corporation

橋本 純

環境経営推進室 グリーンインフラ推進部

2025（令和7）年1月29日

子どもたちに誇れるしごとを。

SHIMIZU CORPORATION  
清水建設



清水建設は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

# シミズの持続可能な社会実現への約束と歩み

## SHIMZ Beyond Zero2050



## TNFD提言に基づく情報開示への取組み

- |            |   |
|------------|---|
| 2021年4月1日  | 環境経営推進室設立                                     |
| 2021年6月1日  | シミズグループ環境ビジョン<br>SHIMZ Beyond Zero 2050<br>策定 |
| 2023年2月6日  | TNFDフォーラムへの参画                                 |
| 2023年9月18日 | TNFD最終提言公開                                    |
| 2024年1月12日 | TNFDアーリーアダプター<br>登録                           |
| 2024年6月24日 | 当社ホームページにて<br>TNFD最終提言に基づく<br>自然関連財務情報の開示     |

# シミズのマテリアリティ (重要課題)

	カテゴリ	マテリアリティ
事業を通じて 社会に貢献できる マテリアリティ	 1. 安全・安心でレジリエントな社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 強靱な社会基盤の構築</li> <li>● 建物とインフラの長寿命化</li> </ul>
	 2. 健康・快適に暮らせるインクルーシブな社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 快適なまちづくり</li> <li>● Well-being 対応</li> </ul>
	 3. <u>地球環境に配慮したサステナブルな社会の実現</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 脱炭素</li> <li>● 資源循環</li> <li>● <u>自然共生(生物多様性の保全)</u></li> <li>● 環境汚染防止</li> </ul>
事業・経営基盤のための マテリアリティ	 4. 誠実なものづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生産性の向上</li> <li>● 品質の確保</li> <li>● サプライチェーンの強化</li> <li>● 労働安全衛生の徹底</li> </ul>
	 5. 時代を先取りする新しい技術と価値の創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 先端技術開発</li> <li>● 新たなビジネスモデルの創出</li> </ul>
	 6. 次世代を担う人財の育成と働きがいの追求	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 働きがいと魅力あふれる職場づくり</li> <li>● ダイバーシティ・エクイティ&amp;インクルージョン</li> <li>● 挑戦し共創する多様な人財の育成</li> <li>● 人権の尊重</li> </ul>
	 7. 「論語と算盤」を基本に据えた経営基盤の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>● リスクマネジメント</li> <li>● コンプライアンスの徹底</li> </ul>

# 環境経営の羅針盤： グループ環境ビジョン 「SHIMZ Beyond Zero 2050」

## 脱炭素社会



自社の作業所・オフィスからの  
CO<sub>2</sub>排出ゼロ



設計施工建物の運用時  
CO<sub>2</sub>排出ゼロなど、  
サプライチェーンを通して  
脱炭素社会に貢献



技術革新・再エネ電力の創出  
により脱炭素社会を牽引

## 資源循環社会



自社事業による廃棄物の  
最終処分ゼロ



資材調達～解体の  
施設ライフサイクルにわたり  
資源循環に貢献

## 自然共生社会



自社事業で自然に与える  
負の影響ゼロ

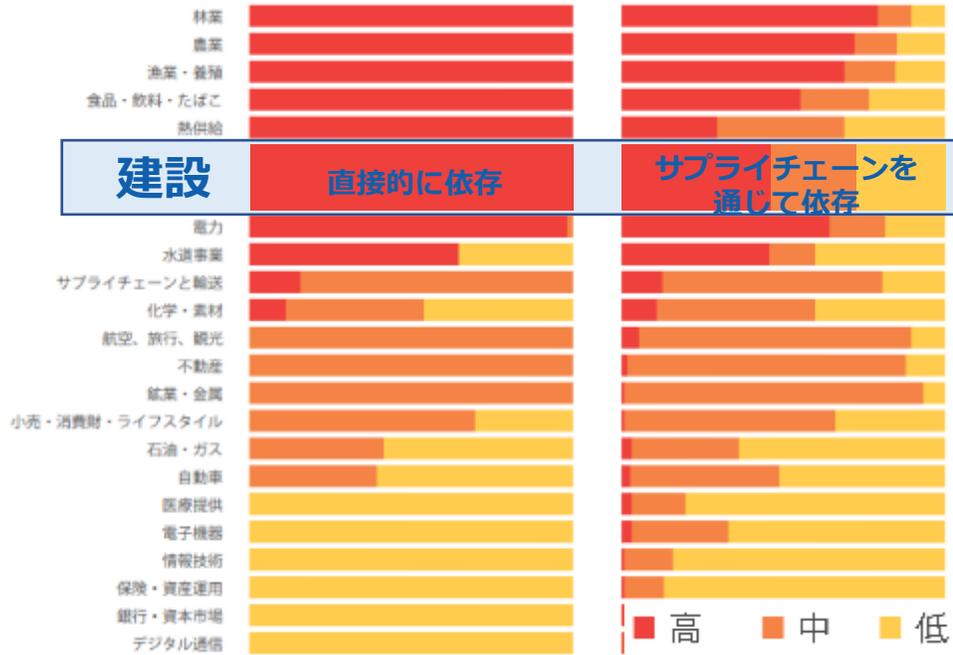


グリーンインフラ導入により  
生物多様性をプラスにし、  
人と自然との持続可能な  
共生に貢献

2021年6月策定

# 企業責任：建設業と自然の関係

## 業種別の自然への依存度

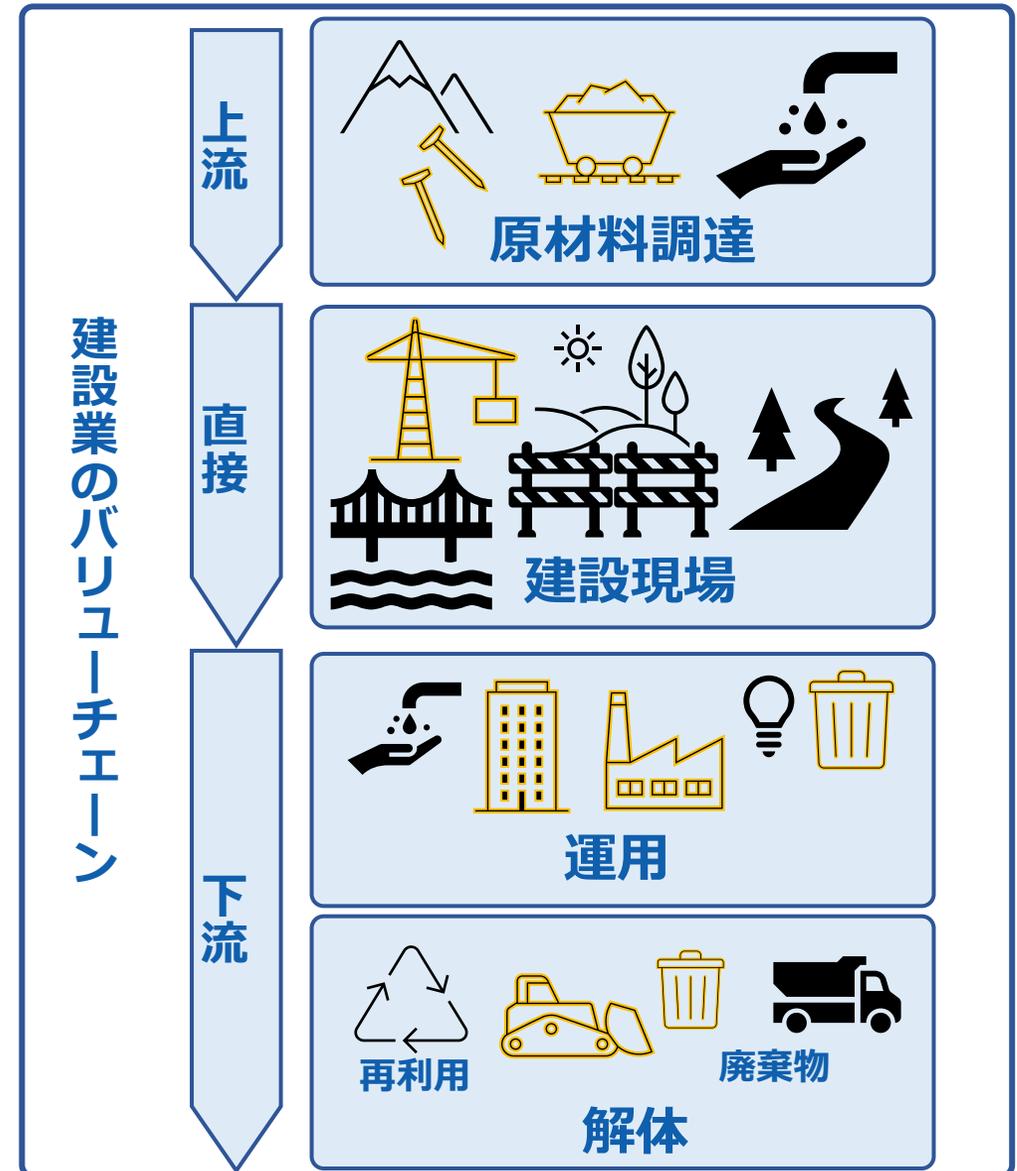


出典：世界経済フォーラム「Nature Risk Rising」報告書（2020年）

## 建設業は依存度が高い三大産業

- 世界の総GDPの半分以上となる \$ 44兆が自然に依存
- 我々の社会や事業は自然に大きく依存

[https://www3.weforum.org/docs/WEF\\_New\\_Nature\\_Economy\\_Report\\_2020\\_JP.pdf](https://www3.weforum.org/docs/WEF_New_Nature_Economy_Report_2020_JP.pdf)



# 事業の上流、直接操業、下流での依存と影響

■ ENCOREを使用。対象は、建設、不動産開発、太陽光発電事業の3事業。

	上流	直接操業			下流		
事業の流れ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">原料採取</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">原料加工</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">輸送</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">施工</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">不動産開発</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">太陽光発電</div>			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">運営管理</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">解体処分</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 20px;">電力小売</div>		
依存	<div style="border: 2px dashed red; padding: 2px;">木材：生態系サービス全体的に</div> <div style="border: 2px dashed red; padding: 2px;">生コン・セメント：地下水、地表水に</div>			気候調節			洪水・暴風からの保護
影響	<div style="border: 2px dashed red; padding: 2px;">陸域生態系</div> <div style="border: 2px dashed red; padding: 2px;">水資源</div>	<div style="border: 2px dashed red; padding: 2px;">陸域生態系</div> <div style="border: 2px dashed red; padding: 2px;">海洋生態系</div>	<div style="border: 2px dashed red; padding: 2px;">陸域生態系</div>	<div style="border: 2px dashed red; padding: 2px;">陸域生態系</div> <div style="border: 2px dashed red; padding: 2px;">水資源</div>	<div style="border: 2px dashed red; padding: 2px;">陸域生態系</div>		

# 重要課題の特定

## ■ 上流の重要課題

取扱量の多い品目を評価

品目	製造主体や原料の流れ	規模や取り組み
鋼材	・鉄鋼メーカー ・原料は輸入カリサイクル	大企業 相手先との協業
セメント	・セメントメーカー ・石灰は国産	大企業 相手先との協業
生コンクリート	・建設現場近傍の生コン工場 ・砂利や砂は国内で採取 ・型枠に木材を使用	地域の中小企業
ガラス	・ガラスメーカー ・原料は国産もしくは輸入	大企業 相手先との協業
アルミ	・メーカー（サッシなど） ・原料は輸入カリサイクル	大企業 相手先との協業

生態系サービスへの依存度も高く、  
取り扱いの多い品目で開始できる戦略は？

➡ 型枠合板

## ■ 直接操業の重要課題

建設現場での土地利用の変化  
➡ 陸域生態系への影響



## ■ 下流の重要課題

建設現場からの建設副産物  
➡ 建設発生土  
➡ 廃棄物 など



土地の改変や陸域生態系への  
影響も考慮できる戦略は？

➡ 自然KY

# 当社のシナリオ分析結果（抜粋）

シナリオNo.1：自然の劣化が穏やかで自然を保護し回復させていく機運が高い世界

シナリオNo.3：自然が劣化し社会の関心も低下している世界

	事象	リスク（R）と機会（O）	影響	時期	当社の対応
上流	トレーサビリティや環境認証への要求	R 困り込み、価格上昇、数量制約による競争	↓↓	短～中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サプライヤーとの関係構築</li> <li>・<b>型枠合板</b>への取組み</li> </ul>
		O 新技術による優位性の確保	↑↑↑	短～中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リサイクル、新建材の技術開発</li> </ul>
直接操業	土地改変への強い規制や土地利用の抜本的な見直し	R 新規建設需要の減少	↓↓↓	長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな建設領域への投資</li> <li>・土地利用高度化に対応する技術力向上</li> </ul>
		O 改修更新工事の増加、自然配慮・再生事業の実施	↑↑	長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次世代の需要に対応する技術</li> <li>・自然関連技術で規制緩和</li> </ul>
	建設現場での自然関連規制や監視が強化	R 評判リスク、ブランド毀損	↓↓	短～長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・独自に自然関連アセスメントを実施（<b>自然KY</b>）</li> </ul>
下流	総量規制を含む再資源化への強い要請	R 設計段階からの強い制約	↓↓↓	長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「新kanたす」による副産物管理</li> <li>・設計・施工段階から建物解体撤去を見据えた4R活動の徹底</li> </ul>
		O 解体技術が施工能力に直結	↑↑↑	長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「新kanたす」による副産物管理</li> <li>・リサイクルルートの開拓、積極採用</li> </ul>

（短期：3年以内、中期：3年超～10年以内、長期：10年超）

# ネイチャーポジティブへの戦略 1：型枠合板

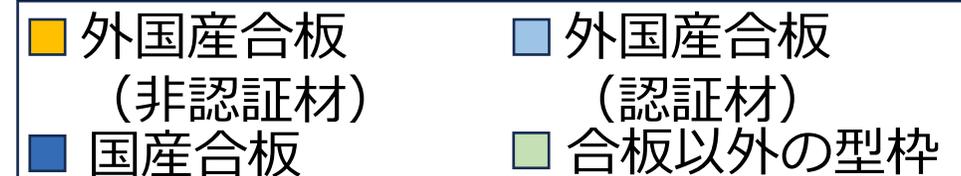
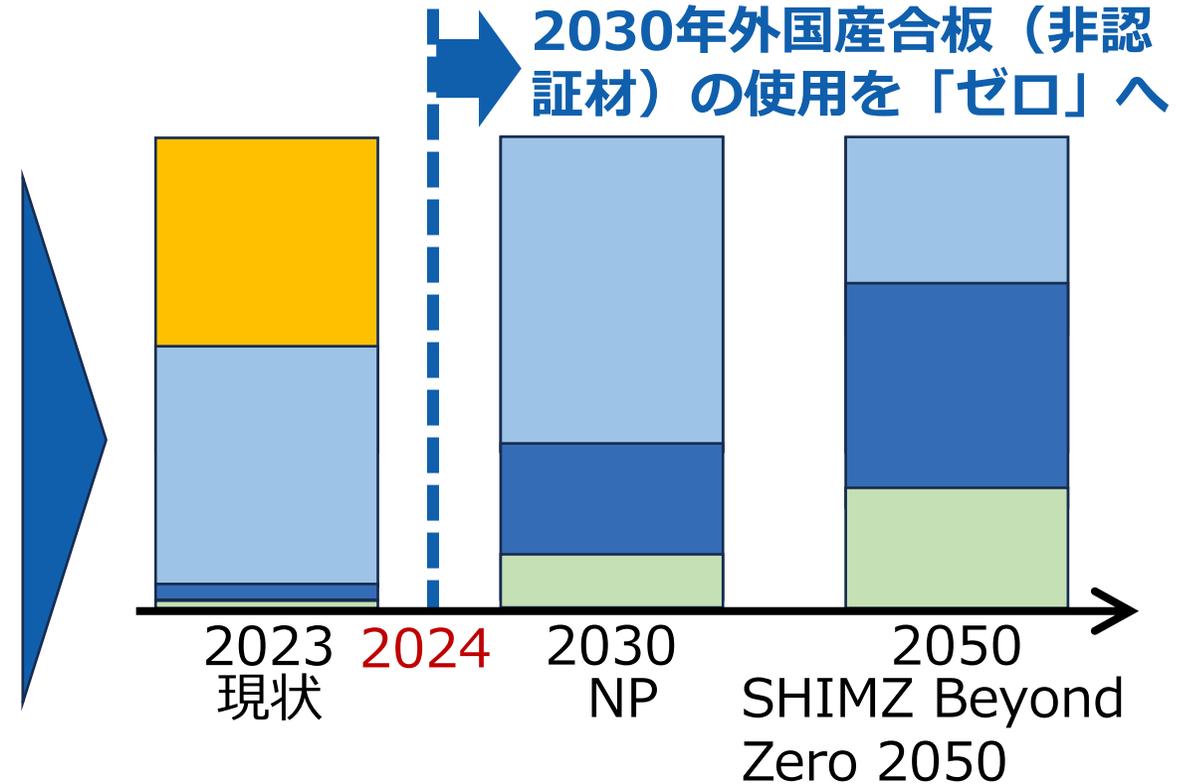
## ■ 2023年度、協力会社へのアンケートを実施

当社建設現場で使用した  
型枠の種別の内訳（2023年度）

型枠の種別	実績
外国産合板（認証材）	52%
外国産合板（非認証材）	45%
国産合板	3%
ハイブリッド合板	0%
合板以外	1%

- 型枠業者、合板メーカー、アカデミア、研究者、NPOへのヒアリングも実施

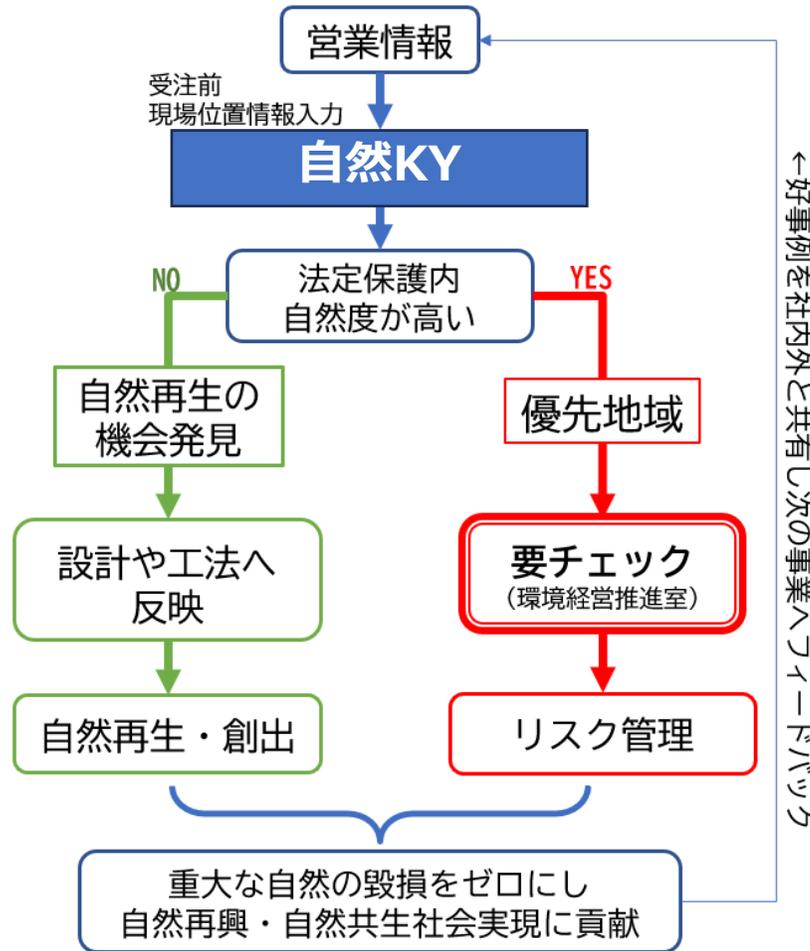
➡ <2024年度からの取り組み>  
意見交換や勉強会によるネットワーク構築、南洋材以外の型枠の普及（試供品提供など）、新規開発に向けた協働



※図中の棒グラフの比率はイメージ

# ネイチャーポジティブへの戦略2：自然KY

- 「陸域生態系へ与える影響」に対する戦略としての独自の自然環境アセスメント。  
自然関連リスクを事前に把握して回避・低減を、自然再生の機会も予測して自然再興を。



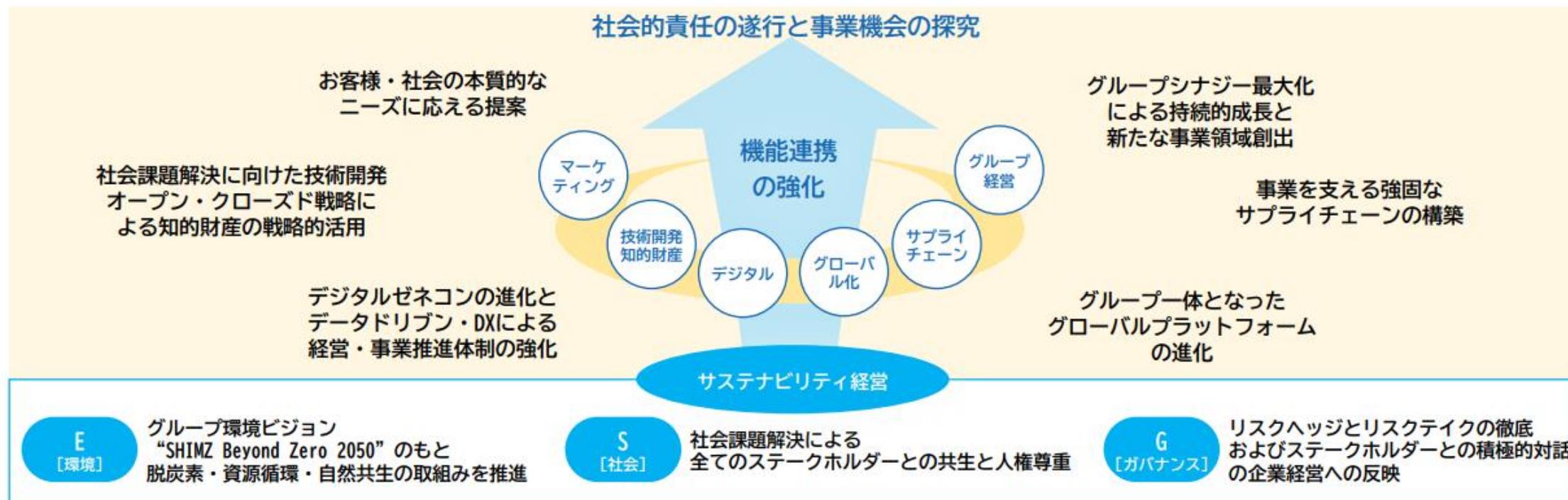
This section contains three maps illustrating natural degree and visualization. The first map, titled '例) 自然度：高' (Example) Natural degree: High, shows a circular area with a high natural degree score of 6.619. The second map, titled '例) 自然度：低' (Example) Natural degree: Low, shows a circular area with a low natural degree score of 1.062. The third map, titled '情報を可視化' (Visualize information), shows a map of Japan with colored dots representing natural degree scores. A legend indicates '人工的' (Artificial) in blue, '自然的' (Natural) in red, and a double-headed arrow between them. Below the maps are three text boxes: '自然の毀損は？ 「危険予知」のKY' (Natural damage? 'Risk prediction' KY), '回復や創出は？ 「機会予測」のKY' (Recovery or creation? 'Opportunity prediction' KY), and '事業判断の材料として活用' (Used as material for business judgment).

※現在は環境省の植生自然度に基づき、1～10までの値をとり、面積に応じた荷重平均でスコア化。今後要件を拡充していく予定。

# 自然KY実施率100%を目標に

## ■「自然KY」をサステナビリティ経営のKPIとして設定（中期経営計画2024-2026）

各種機能の連携を強めて経営基盤の強化を図り、  
企業の社会的責任と、事業機会の探究を両立したサステナビリティ経営<sup>※17</sup>へ



KPI（2026年度目標）

建設事業におけるCO2総排出量  
削減率（2023年度比）  
12%以上削減

自然KY<sup>※18</sup>による  
環境分析実施率  
100%実施

清水匠技塾<sup>※19</sup>の  
受入人数  
年1,800名以上

経営陣によるステークホルダー  
（特に株主・投資家、従業員等）との対話機会  
年50回以上

# TNFDは当社を目指す姿に導く羅針盤



## 「超建設」

今まで大切にしてきた**価値を基礎**とし、既存の事業や組織の**枠を超えて**、お客様や社会の本質的な**ニーズや課題を積極的に探究**しつつ、建設をはじめとする事業を通じて、**お客様や社会に新しい価値を提供**し、その結果**私たちも共に成長**していくという考え方

## TNFD提言に基づく情報開示

自社の成長やありたい姿  
実現に向けた**羅針盤**

## SHIMZ Beyond Zero2050達成

～子どもたちに誇れるしごとを～



シミズグループの

# グリーンインフラ<sup>Plus</sup>+

## Green Infrastructure +

— 子どもたちに豊かな自然の恵みを。 —



Plus : Philosophy of Livable Universe for Sustainability